

美歴だより

諫早市美術・歴史館だより

館長のつぶやき	2
関係者以外立入禁止	3
民具の部屋	4
いさはやの歴史	5
美術の時間	6
美歴 hand made club	7
お知らせ	8

CONTENTS

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.6



館長のつぶやき

あらためましてごあいさつを！

改めて読者の皆様にご挨拶を申し上げます。東京出身で写真とバイクと日曜大工が趣味の老人です。2年前の2014（平成26）年4月から館長席に座っておりますが、まだ諫早の水と空気に馴染めず、職員にも関係者にも山一杯のご迷惑をかけ、また、足を引っ張ってはヒンシュクを買っています。

ところで、この度、「諫早市美術・歴史館だより」編集子から、2016年から型式の変更に合わせて、内容も一新したい。ついては、美術・歴史館の各職員等もく一言を書きように。」との指令？。小職に与えられた題は「館長のつぶやき」。題名は変えてもよいですよとの優しい言葉もあったが「賽は投げられた」。「つぶやき」という行為は面白いと感じた。かつて某総理大臣がブログというツールで、つぶやいたとの記事を思い出したが、我々小市民にとってつぶやきは間違えると愚痴になってしまう。例の寅さんの名セリフ「それを言っちゃーおしまいよ。」ではないが、言い方があるようだ。時に言わぬが花、されど言わなければ伝わらないこともある。でも、何を誰に向



かって話そうか。＜話してどうなる＞を無視して、そうだ、牧場で草をはむ牛ちゃんの前に立ってつぶやいてみよう。

さて、前置きが牛のよだれのように長くなってしまったが、諫早で生活してみると、面白いこと

がたくさんあることに気づき、それを追及することに新たな生き甲斐を感じ始めたが、同時にそれは本美術・歴史館の今後の使命にもつながると思った。多くの市民が当たり前と思っていること、見慣れているもの、あるいは逆に見落としているものなどをかき集め、説明できるようになればいいなと思った。

例えば、諫早公園の笛を吹いてるお兄さんの像は何であるの？、例の眼鏡橋は実際にはだれが渡っていたの？荷車は通れないし。本明川の飛び石は誰が敷設したんだろう、どうして大きな楠がたくさんあるのだろうか、



「のんのこ」って本当は何なのだろう。かつて眼鏡橋の袂にあった「諫早市民憲章」には＜時間を守りましょう＞と謳っていた。諫早時間ってあったのかな。玉ねぎはどうやって日本一になったのだろうか、などなど重箱の隅を楊枝で突くように疑問を引出しては、真面目に検討してみたいと思っている。いじわる爺さんの心境だ。それらがある程度分かってきたら市民の皆さんと語り合い、「諫早の小さな誇り」を醸成したい。できたら小中学生と語り合ってみたいな。牛さんにも聞いてもらったら何んと言うかなー＜モウ、いいよ、って＞いうかも。お後がよろしいようで。

（館長・鈴木勇次）



季刊

関係者以外立入禁止

Staff Only

その1

「私、学芸員になりたいんです！！」

開館してから2年の間、何度か聞きました、このセリフ。高校生・大学生さまざまですが、不思議なことに今のところすべて女性…。美術館や博物館で働く専門職を「学芸員」と言いますが、では「学芸員」の何が、彼女たちをひきつけるのでしょうか？美術品を間近で見られるから？大好きな歴史を研究できるから？歴女？刀剣女子？…。「学芸員」というと「ああ、展示室の隅に地味に座っている人ね。」とか「部屋にこもって研究に没頭する地味な人たちね。」というのがイメージかも。でも、地味どころか、展示の解説や企画展のPRなど、人前に引っ張りだされて「しゃべり」の方を要求される場面が意外と多いのです。「学芸員は資料と観覧者との橋渡しの存在」とも言われますが、資料の取り扱いだけでなく、資料の内容を理解してもらうこと、少しでも興味を持ってもらうことも学芸員の大きな役割です。



そういう点では「資料と接する」のが好きなだけでなく、「人と接する」ことが好きな人が向いている職業とも言えます。このコーナーでは美術・歴史館で日々奮闘する学芸員の汗と涙の日常や関係者しか知り得ない館の裏側をこっそりご紹介していきたいと思います。

美歴の裏側へようこそ！！

(川瀬雄一)

むかしの道具 と ひとのちえ

たとえば、「耕作の道具」のおハナシ。

鍬（くわ）

田畑を耕す、もっとも基本となる民具です。ひとくちに鍬といっても地域により、そこが平坦地なのか斜面なのか、土は砂地質か、粘土質かなどで重さ、形といった作りに違いがあり、使い方も違ってきます。

PICKUP おで鍬



作物など何も作っていない田畑は土が固い状態です。それをつくり土に仕立てていく、最初に使う鍬です。カネの部分が長く、そのぶん重い鍬ですが、これは固い土を起こすには打ち付ける重さが必要なためです。また細長い形です。幅が広いと土にぬかりにくいので、土にぬかりやすい細長い形状につくってあります。諫早ではもっともひろく使っていました。

PICKUP かなさき



おで鍬で起こした土は固まったままの塊土です。かなさきはそれを細かくするための鍬です。おで鍬にくらべてカネの部分が少なく、幅がやや広くとってあります。

おで鍬よりも軽めで、固い土をほぐしていきます。

PICKUP 板鍬



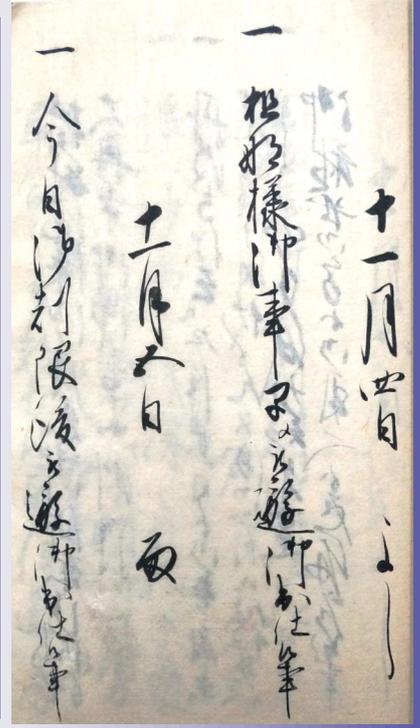
カネの部分は先のところくらいで、はば広い板鍬です。かなさきのように土をほぐす鍬ですが、さらに細かくするためのです。頭のところでは両側を削って不必要な部分を除き、さらに軽くすると同時にここを片方の手で握り、操作しやすい作りとしています。

殿様と檀那樣

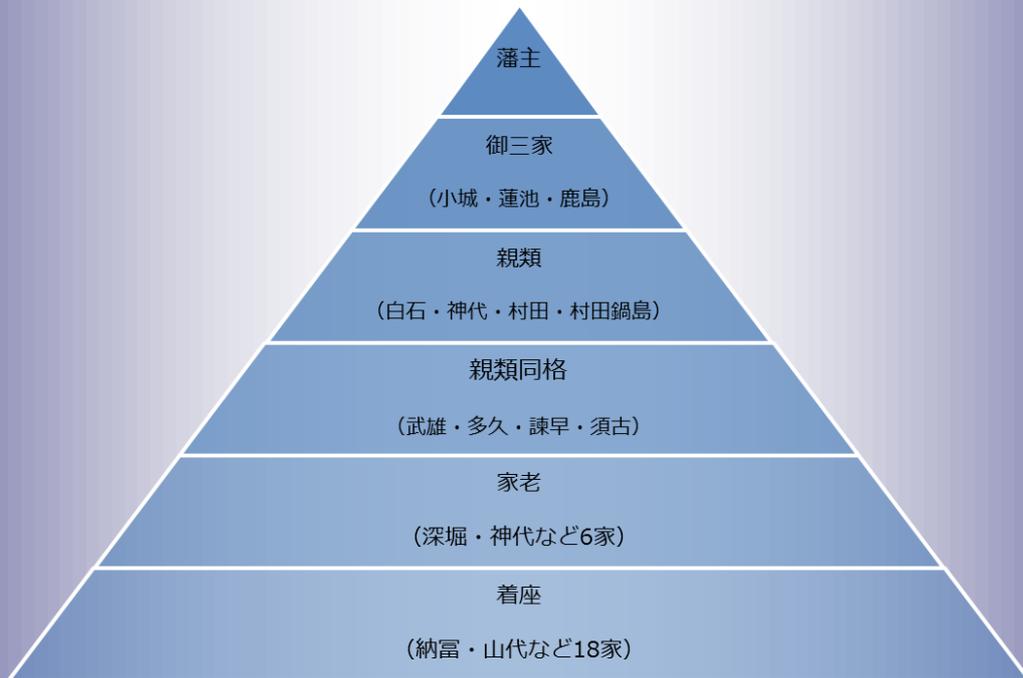
市指定有形文化財の諫早家文書に『日記』『日新記』1033冊が指定されています。日記は延宝4年（1676）～慶応4年（1868）までの192年間分の記録で、書かれた場所も諫早・佐賀・江戸への道中と多岐にわたります。日記には毎日の天候から始まり、諫早領主の動向、佐賀藩、佐賀藩諫早領の行政、長崎港警備、浮立、災害、事件など多岐にわたる内容となっています。

日記の中にはよく「殿様」と「檀那樣」が出てきます。殿様は佐賀藩主の事で、檀那樣は諫早領主のことをさしています。殿様が二人いるとおかしいので、それを区別するために使い分けていました。

一 今日 御刻 限後 被遊 御出 仕候 事	十一月五日 雨	一 檀那 様御 事早 被遊 御出 仕候 事	十一月四日 よし
--	------------	--	-------------



また、よく諫早藩と書かれた書物を目にしますが、諫早は藩ではなく佐賀藩諫早領で、佐賀藩のヒエラルキーでは4番目の「御親類同格」でしたので、藩主や殿様との呼び方ではなく領主や檀那樣と呼んでいました。



野口彌太郎とあこがれのヨーロッパ

諫早ゆかりの洋画家・野口彌太郎（1899-1976）は、二科展や独立美術展を中心に、日本洋画壇で活躍したフォービズムの画家で、その芸術性はヨーロッパから大きな影響を受けています。 「さあ描くぞ！」

【はじめての渡欧】当時の芸術の中心地フランス・パリに、日本人画家たちはこぞって渡っており、野口もかねてより渡欧したいと考えていました。二科展で活躍後、野口は30歳になるとヨーロッパに渡り、フランス・パリにアトリエを借ります。グランド・ショミエール研究所に通い、サロン・ドートンヌに入選、「港のカフェ」はフランス政府買上げになるなど活躍しました。本場ヨーロッパで芸術の礎を築きました。

【30年ぶりの渡欧】ヨーロッパから帰国後、野口は独立美術展など様々な

一日でも早く来ればよかった

展覧会で活躍を続けました。その後、前回の渡欧からおよそ30年ぶりの61歳で再びヨーロッパに旅立ちます。滞在中ヨーロッパ各地を旅行し、特にイタリアのベニスの風景やスペインの美術作品から大きな影響を受け、画風が変化するきっかけとなりました。作品の色彩は明るく鮮やかになります。 「もっと傑作を描く…」

【円熟期】帰国後、野口彌太郎滞欧作品展の業績と「セビラの行列」により毎日芸術賞を、野口芸術の集大成「那智の滝」で芸術選奨文部大臣賞を受賞しました。野口は大きな影響を受けたヨーロッパの油絵を日本の洋画として昇華させ、自身の芸術を完成させました。

| 企画展 | 野口彌太郎展—あこがれのヨーロッパ—

会 期 | 2016/4/13(水) - 5/16(月)

場 所 | 2F 企画展示室3 ※入場無料

時 間 | 10:00-19:00(最終入場18:30)

休館日 | 毎週火曜日と5/6(金) ※5/3(祝)は開館

絵画7点と本人の言葉や写真などの関連資料を展示します。

野口のヨーロッパへのあこがれと制作や芸術に対する想い、そこから生み出された作品を紹介します。



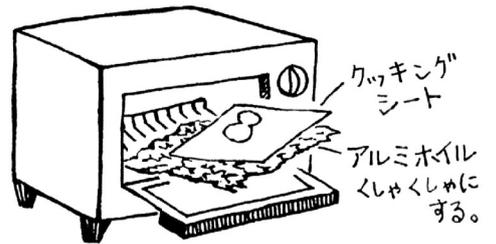
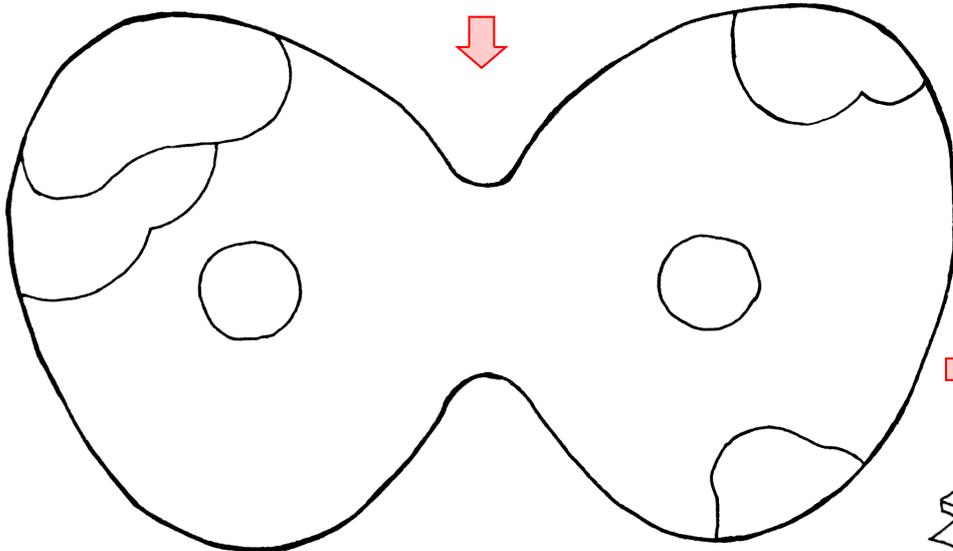
《チロル》1962頃 油彩



■材料：白色プラ板（厚さ0.2mm）、真鍮針金（太さ0.3mm：長さ50cm）
ビーズ（勾玉2コ、丸小2mm13コ）、ブローチピン（2.5cm）

■道具：オーブントースター、クッキングシート、アルミホイル、ハサミ、ペンチ、ニッパー、色鉛筆(aとc)、マーカー(b)、消しゴム、接着剤、ノート（重し）、綿手袋

■作り方：①プラ板をざらざらの面を表に下の図を写し描きし、ハサミで外枠を切る。 ※焼く時には火傷をしないように手袋を！



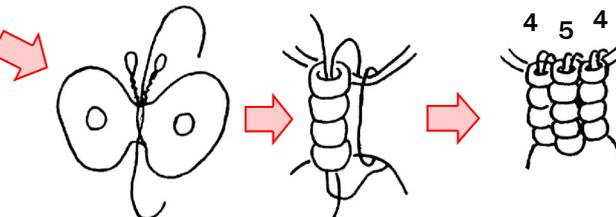
②図のようにオーブントースターでプラ板をちぢみきるまで焼くふたは閉めて焼く。

③クッキングシートごと取りだし、図のようにはさんで冷ます。



※焼き上がりは約4分の1の大きさになります。

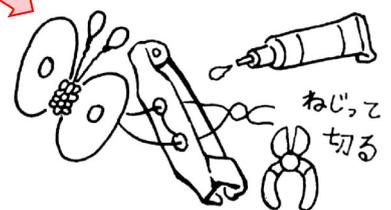
④針金（50cm）の中心をとり、図のようにビーズ（勾玉）を通しつまんでねじる。



⑤蝶の触覚ができれば、羽に1回巻きつけ、ビーズ（丸小2mm）を通し巻きつける。



⑥裏返して針金を横に2~3回巻きつける。



⑦ブローチピンの穴に針金を2~3回通し締め上げる。端をねじってニッパーで切り、接着剤を少しつけて完成。

お知らせ

発行日：平成28年4月

プレゼンテーションウォール開放

常設展示室「諫早の美のコーナー」のプレゼンテーションウォールを下記の期間中に開放し、新緑美しい高城回廊や御書院の庭園を借景とした展示を行います。



期間

4月13日(水)～5月16日(月)

展示資料

現川焼などの館所蔵陶磁器

観覧料

高校生・大学生・一般 200円

小学生・中学生 100円

※市内在住または市内在学の小・中学生は無料

※団体(15人以上)割引あり

また、上記の期間、2階企画展示室では「野口彌太郎展－あこがれのヨーロッパ－」と題し、諫早ゆかりの画家 野口彌太郎の絵画7点などを展示します(観覧無料)。

館講座

◆ 館長講座 ◆

と き／4月30日(土)午前10時30分～12時

と ころ／美術・歴史館2階研修室

内 容／諫早の七不思議

「諫早公園のあの像はな～に？」

講 師／鈴木 勇次(美術・歴史館長)

その他／受講料無料、事前の申し込み不要

◆ 史跡探訪バスツアー ◆

と き／5月28日(土)午前9時～午後4時

コース／多良見・飯盛方面

定 員／30人 ※申込多数の場合は抽選

その他／昼食持参、小雨決行、動きやすい

服装、参加費100円、目的地まで

歩く史跡も有

申込方法／ハガキ、ファクスまたはメール

に、住所、氏名、年齢、電話番号

を記入し、5月6日(金)まで

〒854-0014 諫早市東小路町2-33

諫早市美術・歴史館

TEL:0957-24-6611 FAX:0957-24-6633

メール(bireki@city.isahaya.nagasaki.jp)

― 編集後記 ―

新しい「美歴だより」はじめました。

ささやかなミュージアムニュースですが、美術・歴史館と皆さんを結びつける橋渡しとして育てていきたいと思えます。

興味がある人も、そうでない人も、偶然でも、

気まぐれでも、

箸休めでも、

手にとって、

美術・歴史館を知る

一つのきっかけになっただけならば幸いです。

まずは手にとってくださいただご縁に心から感謝です。

(山本貢)